

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「文理横断・文理融合教育」	千葉市立千葉高等学校	全日制 普通科／理数科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は、千葉市初の市立高校として昭和34年に創立(普通科)。また、昭和45年には理数科を設置し、現在は各学年普通科7クラス、理数科1クラス計8クラスの学校である。
- ・変化の激しい予測困難な社会を生き抜くために必要な、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間力等を育成し、生徒一人ひとりの進路実現を力強く支援するにあたり、多様な選択科目の設置、少人数や習熟度別授業の展開、1・2年次の「総合的な探究の時間」を活用した探究活動を充実させ、課題発見・課題解決能力、論理的思考力等の育成に取り組んでいる。また、英語4技能をバランスよく高めるとともにALTを活用した授業の充実を図っている。
- ・SSH研究指定校としての実績を基礎として、より先進的な理数教育を展開し、持続可能な社会をリードする人材の育成に努めている。その一環として、生徒の興味・関心を引き出す多様なフィールドワークの実施、大学や専門研究機関、博物館・美術館等との連携・協働による外部連携講座の充実、2年次SSHコースの設置による普通科生徒の理数探究教育の重点化、複数教科の多面的理解を深化させる分野融合型授業(クロスカリキュラム)の充実等、様々な取組を行っている。

(授業展開)

- ・1年次は各学科ともそれぞれ共通科目の履修による基礎・基本の学力の定着を図り、2年次では、地歴、理科、芸術の選択があるが、3年次普通科では自分の進路希望に合わせ、多様な選択科目により3つの類型に分かれて授業を展開している。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・4月当初には、着任教諭等を対象に分野融合型授業の取組や概要についての研修会を行っている。分野融合型授業を行うにあたって、校内ウェブを通じて全職員に周知し、授業観察ができる環境を整えている。職員間のコミュニケーションや授業観察を通して、個人のスキルアップや他教科との繋がりを学ぶことができる。

③ 校内組織

- ・分掌「SSH推進部」を中心に教科横断・分野融合型授業の年間の取りまとめを行っている。昨年度は、分野融合型授業は21テーマで64の授業を展開してきた。そのうち、文理融合型としての授業は14テーマで50の授業を展開した。
- ・分野融合型授業を行う際は、全職員への周知を行い、一部ビデオ撮影を行い、記録を残している。
- ・授業後は、アンケートを実施し集計を行うことで、次回に向けた分野融合教育の改善を図っている。

④ 施設設備

- ・本校は、各教室に大型モニターが設置されており、また、講義室・ゼミ室・視聴覚室等にも同様の設備が施されている。さらに多くの生徒を収容して実施する際は、大ホール等を活用して大型スクリーンに映しての展開も可能である。

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・過去に実施した分野融合型授業の内容を体系的にまとめたデータベースを学校HPにアップし公開している。また、SSHの研究成果等をまとめた研究開発報告書を毎年作成し、全国のSSH校ほか関係機関等へ送付し、本校の取組を周知している。毎年のように県内外の教育機関からの視察の依頼があり、本校のこうした取組について情報を提供している。
- ・SSHの取組をまとめたパンフレットを活用し、千葉市内の小中学校を中心に配布を行っている。
- ・千葉市の全公立中学校、及び本校理数科に在籍している生徒で千葉市外出身の中学校に対し、生徒募集の一環として学校訪問した際に概要の説明を行っている。

⑥ その他

- ・過去に実施した分野融合型授業のテーマや使用した教材を校内ウェブで閲覧できるようにまとめるとともに、一部の授業を動画撮影してオンデマンド化している。

⑦ ポイント(優先順に箇条書きで3つまで)

- ・期待できる教育効果
- ・関心・意欲の高まり
- ・教科間の連携及び知識の共有

イ 今後の課題

- ・職員が入れ替わっても実施ができるように、SSH推進部及び各教科を中心にサステナブルな体制を整える必要がある。
- ・新たな分野融合型授業の開発について、常にアップデートし考えていかなければいけない。